

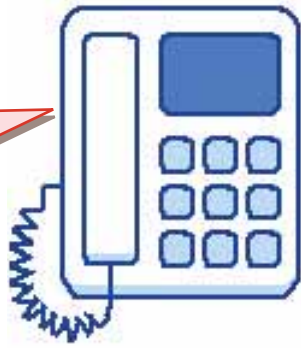
# 民生児童委員だより

# 一歩いっぽ

発行：稚内市民生児童委員連絡協議会  
☎(0162)24-1139  
責任者：石田 一由  
編集：広報委員会  
平成26年11月発行 (No.3)

いろいろな悩みごと  
お気軽にご相談下さい

- ◎子どもがいじめにあったり、学校に行きたがらない
- ◎生活が苦しい ◎病気で働きに出られない
- ◎子どもが進学するのに資金が・・・
- ◎寝たきりのお年寄りをかかえて困っている



誰にでも、打ち明けられない  
悩みの一つや二つはあるもので  
す。  
それが生活苦に結びつくもの  
であれば、家庭の不安は余計に  
つづきます。  
民生委員は話を聞いてくれる  
相談相手です。気軽に悩みを話  
してみませんか。  
あなたのプライバシーは守られ  
ますので、勇気を出して、相談  
の扉をたたいて下さい。

## 一子育て・教育に関すること

### 子育てのポイント

#### 子どもの発達について

（教育委員会発行「わいわい子育て」より）

妊娠、そしてお母さんのお腹の中で40週育つて、無事誕生を迎え未来に向かつてすくすく育っていく赤ちゃん！

お子さんの発達や発育は、一人ひとり皆違います。みるみる大きくなつていくお子さんみれば、ゆっくりのんびりと成長していくお子さんみえます。お子さんそれぞれの個人差があります。子育てでもその子のペースに合わせたお父さんやお母さんの関わりが大事になつてくるのではないのでしょうか。また、この時期の子どもの成長はいちじろしく、毎日が感動の連続であったり、頭を悩ませたりと子育てに日々奮戦しなければなりません。

そのような中で、お子さんの成長を少しずつ確認でき、**子育てで大変だけれど楽しい！**と思える子育てをしてほしいと願っております。

子どもの**間違い**は正さなければなりません。子ども一人ひとりの**違い**は尊重しなければならぬということがポイントです。

### よくある子育ての悩みを一緒に考えてみましょう

**Q** 下の子が生まれてから、上の子が赤ちゃんがえりをするようになりまし。上の子も下の子も同じようにかわいがっているつもりなのですが、どうして上の子は不満なのでしょうか。

**A** 親は、どちらも50%ずつかわいがっているからよしとしていま

すが、上の子にしてみれば、今まで100%だったのが50%に減ったことが問題なのです。

本来こういうことにならないために、下の子を妊娠したら、上の子どもを孤立させないよう



に、上の子の教育を始めます。わかりやすく言えば、上の子どもに、下の子どもが生まれてくることを楽しみにさせるような雰囲気づくりをします。「もうすぐあなたの弟(妹)が生まれてくるわね」「あなたの新しい友だちよ」「いっしょに遊べるからいいね」など。

まずいのはいきなり下の子どもが生まれたというような印象を、上の子どもに与えることです。そういう状態になると、**嫉妬心と闘争心はいじらないほうがよいでしょう。**（本能的であるため、叱ったり説教しても意味がありません）

こうした赤ちゃんがえりや、下の子へいじめを始めたなら、①様子があまりひどいようであれば、以前と同じように、もう一度100%近い愛情を与えつつ、少しずつ、愛情を減らしていく。②症状がそれほどひどくないようなら、50%対50%を貫き、そのつど、上の子どもに納得をさせるかどちらかの方法をとってはどうか。

**Q** 「自分からすすんで勉強しよう」としないので、困っています。ポイントのようなことがあれば教えて下さい。

**A** 子どもを勉強から遠ざけるものに、**無理、強制、比較、それに条件**があります。能力を超えた学習を押しつけることを無理。時間や量を決め、それを押しつけることを強制。無理や強制が日常化すれば、子どもが勉強嫌い

になつて当然です。「A君はもうひらがな書けるのよ」とか、「お兄ちゃんはある年の年齢のときには、算数は100点ばかりだったのよ」というのを、比較といいます。

次に「条件」とは、「成績があがったら、自転車を買ってあげる」「100点をとったら、お小遣いをあげる」など、子どもをつることを条件といいます。この条件はやがてエスカレーターし、中学生になると「スマホ」、さらに大学生になると「自動車」となるでしょう。

子どものほうから何か条件をつけてくることもあるかもしれませんが、そういう時は、「あなたのためでしょ」という毅然とした態度が、子どもを自立させるのです。

ともかくも無理、強制、比較、それには、勉強をさせるには手っ取り早い方法ですが、それだけに弊害も大きいのです。

**Q** 「最近、子どもとしくりいっていません。話しかけても、会話が成立しないのです。今後、どのように関わっていったら良いのでしょうか。」

**A** 親子の関係を断絶させる要素は、**信、それにリズムの乱れ**です。「私は親だ」というのが権威主義で、「子どもは親に従うべき」と言う親ほど、あぶないでしょう。親が権威主義的であればあるほど、子どもは親の前では、仮面をかぶり、いい子ぶります。その分だけ、子どもの心は離れ、親は親で、子どもの心を見失ってしまいます。次に相互不信です。「うちの子はすばらしい」という自信が、子どもを伸ばします。しかし親が「心配だ」「不安だ」と思っていると、それはそのまま子ども